心を開かせること

——幼稚園と低學年の教育——

倉橋惣三

昨日一昨日の樣なお天氣のよい日に、逝く春を思ひ乍らお濠端を歩いてこの講堂にお出でになり、一おごりおごつていらつしやるといふ事は皆さんにとつて定めし愉快な事でせう、ご勉强といふよりお樂しみでした。今日は果して御勉强か否かテストするために、こんな惡いお天氣になつたのだと思ひますが。やつぱり御勉强でした。但し今度の御勉强の目的は遊戯の實習でありました。私の話はほんのつけたりであります。その短い附錄をごこに問題の中心を置いてお話したらいゝでせうか。

幼稚園と低學年の共通の問題として先づ考へられる事は、兩方共教育の始であるといふことであります。そこで、教育の始はどういふ點にその重心を置いてゆくべきかといふことが御一緒に考へたい問題になります。それを考へるにつきましてまづ教育といふ事が、——今更こゝに說明する必要もありませんし、說明しやうとも思ひませんが、——色々に考へられるのであります。その一つは普通に考へられてゐる「教へること」、「つめ込むこと」、であります。とに角子供の心の中に何かを入れて行く事であります、これは教育の一つの大切な方面に相違ありません。ところが、その與へる、教へるといふことが幼い子供には不適當である。注入するのはよくないといふ所からして、第二の考へ方が持ち出されてくる。それは教育とは押つけることでなく、注ぎ込むのでなく、引ぱり出すことだといふのであります。英語で教育を Education といふのも、引張り出す

といふ意味であると說明したりする。この引出すといふ事も勿論大切な事で、幼稚園低學年に於ては入れるより引出す教育の方がその年齡の子供に相應しいといふことも申す迄もありません。

が、今日私が考へます事は、教育の極く始めに於きましては、押つける、與へるのでは勿論なく、引出すのでもなく、もう一つ別の意味があるといふことです。引出すといふ風に考へる方は新しい教育的の響がありますが、又考へてみますと、押つけられるのは勿論つらいでせうが、引出されるのも仲々苦しいものではないでせうか。咽喉へ手を入れて引ぱり出す。まだ〳〵頭の中にあるだらうとしぼり出す。そんな目にあふのも仲々苦しい事だらうと思はれます。殊に皆さんのやうな、引出すのに熟練してゐられる方に逢つては子供はとてもつらいものでせう。引出されて仕舞つて、からになつてしまふかも知れない。子供が「今度の先生は押つけはしないが、しぼりやだよ。今日もすつかりしぼられてしまつた」なんて言ふ。子供は引出し教育によつて、すつかりへト〳〵になつてゐる。そこまでは出すまいと思つてゐても、先生がなだめつ、すかしつ、すつかり出させてしまふので、子供はへト〳〵になつて仕舞ふ事はありはせぬかと思ひます。そこで引出すのも加減ものだといふ事になります。それも年齡が大きくなり、不精になり切つてゐる我々に對してなら、引出すのも必要でせうが、あの小さい子供には、押つける教育が早すぎる樣に、引出すのもまだ早いことだと思はれます。

○

そこで此二つのどれでもない第三の意味として、何を心がけたらいゝかと申しますと、引出すのでなく出口をあけてやる、といふ事が大切ではないでせうか。吸出すのでなく口をあけてやるのです。口をあけてやれば出るものは出ます。之を言ひかへますと出やすくするのであります。

こう言ひますとそんな特別な手數をかけなくても、あの小さい子供はどん〳〵心の中のものを出してゐるではないかとも考へられます。或子供はそうでありませうが中にはそうでないのもある。或る性格の子供は自分の生活がらくに外に出かねるものもあるのであります。或は又そうしむ

けられて、そんな狀態に置かれてゐる子供もあるかも知れません。私は最近ある子供に逢つたのですが、この子供には半年程前に逢ひました。その時私はそのお母さんにこうこうして、と色々注意をして置いたのでありますが、半年後の今日その子供が特にごうりこうになつたといふ事はないのですが、どことなく心の蓋があき易くなつてゐるのを感じました。前には何となく閉鎖的であつたのです。相當しつかりした處でありながら何だか閉ざされてゐるといふ感があつたが、今度は樂々と開いてゐるのです、心の口があいてゐるといふ感でした。口があいてゐないと、心の中を出させるのに骨が折れます。が一度あきますと樂に出る樣になるのであります。

一般に、子供はどん〳〵心の中のものを出すといふ事を言はれてゐるが、必ずしもそうは行かないのであります。それは大人にも、自分の心の中が樂に出る人と出にくい人がある。出るけれど出すか出さぬかは意志や思慮によつて異ひますが、出やすいか否かの傾向の差は大人にもある。あの人はそうべらべら思ふ事を皆言ふわけではないが會つて見ると何となく心の開いてゐると思はれる人がある。又反對に、朗かさうで快活さうでゐて何となく蓋のしてある樣な、性格の根本に於て閉塞的な人があります。そう、外から判るのでなくとも、自分でそれを自覺してゐて、自分の心がもつと樂に開いたらと思ふのにどうしてこんなに開かないのかと訴へる人もよくあります。勿論大人がそう開けつ放しでもいけませんが、こゝでは存分開けてもいゝといふ時にさへ開けきらぬ人があります。その時の妙な氣持はその人にも感ぜられる。こう大人が反省して考へる樣にあの小さな子供が考へるわけではないが、心の中を開き得る幸福な子に較べて、開かない子供はどんなにもどかしいだらうと思ひます。樂にゆかれるものがつかへてゐる事を憐れに思ひます。

ところで、もう一つ話を進めますと、自分を自由に出す子供にもその出し方が色々ありまして、中にはへんな亂暴な出し方をしてゐるのもある。このフラスコ(卓上の)の水の出かたはそつと出るのが正しいのであります。あの粗暴、亂暴な子供は心の中が順序よく出ないのでありませう。こ

う出方にも正しいか否かの二つがあります。又正しいか否かの他に何と言ひますか出方の美しいのと美しくないのとあります。同じ水が流れてゐても美しい小川と汚い小川がある樣に。その美しい出方といふのが問題であります。更に美しいか美しくないかの他に出し方のやはらかいか、ごつごつ出るかの區別もあります。このやはらかに、正しく、美しく出る事、それを色々考へると又問題がこまかになつて來る。

○

大人になつて自分の心の中が素直に出にくい人達がよく自分は小さい時は出たのに大きくなつたら出なくなつたと言ふ。又先生に言ひかねた、親に言ひかねたと言ふ事があると思ふ。先生は教へる事、與へる事引出す事は上手だが心を何となく開かせて呉れなかつたといふこともある。一體こう言ふ開かない傾向には小さい時になるのであります。小さい時開いて貰つたものは出易くなるのであります。出させて貰ふのでなく出易くして貰ふのであります。こう言ふ心の蓋を開けてやるといふ事は幼稚園及低學年に於て心掛けて行くべき事であると思ふのであります。

○

幼稚園、低學年は畑を耕す樣なものであります。畑を耕す事を或人はかたい土では種子が入らないから土を柔くして種子を蒔くのだと言ひます。然し種子を入れる爲に柔くするのではありません。いくら柔くしても、その中に種子を入れて蓋をしたのでは芽は出ません。耕すのは芽を出易くしてやる爲であります。心ある人は庭中を耕して芽が出易くしてやるかも知れません。人の心も同樣に教へる爲に耕すのではなくて、中からのものが出易い樣にしてやる爲だといつていゝでせう。

○

さてその心といふ事について更に考へてみます。心を大く分けると智と感情の二つに分けられる。その中で智が容易く出る子供はきつと話を樂にするし、畫を樂にかき、或は製作を樂にするのです。都合によつたら出さなくてもよい點まで出す、が樂に言へる所を買つてやる必要があります。それに對し、その言へない出さない子供はずん〳〵

言へる子と比べて氣の毒に思ふのであります。繪をかいてゐるのをみた時、その巧拙でなしによく心の中に浮ぶものが書けるなどうらやましくなるのもあり、その技量のあるなしでなくて腕をもち乍らかけない、表せないでゐるのもある。保育項目の中の繪、お話とかでは智的の發表が樂に出るか否かをよく知る事が出來るものであります。低學年幼稚園で何故お話をさせるか、何故製作をさせるかといふ事はそれによつてこれを教へるのでない事は勿論でありますが、あの樣な方法で子供の心の中にあるものを引出さうと言ふのでもなく書かうとしたらすぐその材料があり作らうとすれば粘土がある事によつて、出さうとする時すぐ出せる樣、心の蓋が段々開いてゆく樣にするのであります。この意味で感情的の方を考へますと、それがそのまゝに出ますのはあのうたのふしであり、リズムであります。それがすぐ唱へるのは蓋のあいてゐる人であります。小さい子供はよくすぐ唱ひます。唱ふ事が蓋の開いてゐる事であるならば、それをさせるのもその效のあることであります。唱はせることに依つて情操を養はうなどいふのではなく、たゞきれいだと思ひ、いゝなと思ふ、思ふから自然に歌になつて出るのを出るようにさせるのに過ぎないのであります。そして歌ふことによつて氣持が樂になります。私がおごり度いと思ひ、運動のリズムにのつておごります。そうするとおごる事に依つて自分が樂になります。この講習は遊戯を主としてゐます。皆樣お壕端を通つていらして、おごり度いなと思ひ乍らこゝにいらつしやる、そしておごつていゝ氣持になつたら樂でありませう。平常は幼兒をおごらせる時は自らおごり度くて一ぱいでもおごれない。こゝならおごれます。それでさつきお樂しみでせうと言つたのです。私が外國へ行つた時船中で或牧師さん夫婦がダンスをしてゐました。私があなたのような眞面目の人がおごるのは變だといふ樣な意味のことを言つてきゝましたら、その人は、おごるといゝ氣持になる、きれいな氣持になつて眠る事が出來ます、と言ひました。これはその人の中にあるものがおごりの形になつて、おごりの形をかりて出るのであります。何故幼稚園及低學年で遊戯をさせるかを考へますと、すぐ或人は健康の爲とか、人格を高潔にする爲、

性情をよくする爲、或はおごりかた自身を上手にする爲とか言ひます。教育者といふものはすぐにこうした效果とか、利益とかをあげ樣とします。そのために何んでもしつっこくなります。情操を養ふのだから首はこうまげてとか、歌の意味をよく表してとか註文します。青年期のおごりや、おごりを習ふ人ならこうした註文もいゝでありませうが、幼稚園や低學年ではそんなことより心の中が樂に出る樣な傾向をつけるものであると思ひます。

○

この意味から、卽ち幼稚園及低學年の教育を、始めである事からして最も簡單な意味で心を開く教育をすべきであると言ひ度いのであります。人間は世の中に出る樣になれば一そうのこと色々な事が邪魔になつて心が開けないものであります。何とも言へない變な性格になつてしまふのであります。それで小さい時に心を開く傾向をつけるといふ事は最も大切な事であります。もう一度言ひますと、心の中を出させるのではなく、出し度い時に出るようにして置くのであります。

○

これが幼稚園及低學年の教育に大切であるとすれば我々は相手の心をそう樂に開かせ得る人でなければならないわけであります。自分の存在に依つて相手の心が開ける樣になり度い。あの先生によつて心が開ける樣になつたといふ風になり度いと思ふのであります。こわく押つけるのでなく、そうかと言つて特別にチャーミングなと言ふのでもなく、たゞ樂に心の蓋をあけられる樣な、先生はそうありたいのです。出せとも言はず、押込みもしない。春風のように、吹くともなく吹き、誘ふともなく誘ふといふように、自然に人の心をほぐく事。これだけで非常な意味をもつと思ふのであります。

そこで相手の心を開かせるにはどうしたらよいでせうか。それには先づ、こちらの心が開けてゐなければなりません。開けてゐるからと言つて無暗におしやべりと言ふのではありません。いつでも心のまゝを出せる人、そんな傾向の人が、相手の心をも開くでありませう。頭のよい人はともすれば自分の心を閉します。又修養に務めすぎる人は

大へん自分の心を閉したりします。青年の先生にはそんな人がよいこともありませう。が、幼兒教育にはそれではこまります。幼兒を悶えさせる事も、自己統制させる事も必要ありません。心を開かせる事が必要なのであります。

○

この話は多分あんまり何でもないお話である爲皆樣に却つてお判りにくかつたかと思ひます。なんだそれ丈でいゝのかといふ御疑問がどこかにおありではないかと思ひます。然しそれ丈といふ所が非常に難しいのであります。子供が私の處へ來た爲、何はなくとも心が開いた。御馳走はないが食べたい氣持になれたといふ譯であります。ところで、なぜこんな淡いことに重きを置くかと言ひますと、少し氣取つた言葉になりますが、これがあつて始めて子供に生活の喜びがあり得るからであります。生活の喜びは、思ふ事をそのまゝ樂に言ひ表せ、樂に出せる事に先づあります。少くもそこに生活の喜のもとがあります。

幼稚園及低學年に於ける生活の第一歩は喜でなくてはなりません。その上に賢さも强さも大切でありますが、まづ喜びを感じさせることが第一のもとだと思ふのであります。皆樣の子供達がこの意味に於て生活の喜を得てゐるか否か、時々そういふことを考へて見ていたゞきたいと思ふのであります。（保育實習科同窓會主催幼稚園と低學年のための講習會講話筆記　文責在編輯部）

基督教幼稚園の日本にて創始
五十週年を迎ふ

今年は我基督教幼稚園の日本にて創始されてより五十年の記念すべき年に當ります。五十年と云へば一世紀の半の歴史を經て來ました。

此の光輝ある年を機として世人の幼稚園に對する理解を深め、幼稚園教育の眞價を强調して、日本全國一齊に氣勢を揚げ、益々その使命の爲に邁進いたしたいと存じます。

茲に於て基督教保育聯盟は、全國九部會と共に提携し、各地に於て講演會により「ラヂオ」により、祝賀の心と共に益々我がキリスト教幼稚園の立場を確保し併せて幼稚園の重要性を世に呼びかけて五十年事業の一端といたしたいと計畫しました。

基督教保育聯盟